

■お題「重」

- ①薄手のものを重ねて避寒 なのに着ぶくれ!? ぶんむくれ
- ②片貝の鮑はぴったり重なる殻の相手はなくて片思い
- ③転んだ女性を助け起こすもえらく太目で重ねもち
- ④前代が神と崇めた歴史の雄も今じゃ悪魔と紙一重

■お題「鳥類」

- ⑤昔はな 若いツバメで鳴らしたのさ いまは着た切りスズメでも
- ⑥カラス群れてもリーダーいない てんでばらばら好き勝手  
・なぜなのか カラスの群はリーダー持たぬ そんなのカラスの勝手でしょ
- ⑦鳥の字「鳥」によく似てちょっぴり違う 目もとあたりの線一本
- ⑧平安期 和の正装でかぶる烏帽子は黒い漆のカラス色
- ⑨湘南の海のシンボル 烏帽子の岩も 先っぽ少し型崩れ  
・米軍の射撃訓練 標的にされ 欠けたんだとさ 烏帽子岩
- ⑩部首「(ふるとり)」は昔は一字 群れる小鳥のことだった
- ⑪虫のなかにも雀がいたよ みんな恐がるスズメバチ
- ⑫どんな姿か霜降雀 鳥じゃなかった 蛾だってよ
- ⑬スズメ歩きは両足そろえ ぴょんぴょん跳ねてホッピング  
・雀たち足を揃えてぴょんぴょん歩く“踊り忘れず”の所以だと
- ⑭孔雀の羽の目玉の模様 多いとイケメンよくもてる

■「寝」

- ⑮平安の貴族の館 寝殿造り 壁も障子もない広間  
・日常は御簾や几帳で空間仕切り 宴の際は取っ払う
- ⑯イタリアの冬の五輪をちらちら観ては 食っちゃ寝だけの繰り返し
- ⑰時計の針さえ重なるときに わたしゃ単身ふみん症
- ⑱東風(こち)に吹かれて梅の香ほのか まどろむ午後は夢心地  
——七十二候の最初「東風氷解」(はるかぜこおりをとく)も過ぎました。
- ⑲憧れの女性(ひと)に迫られ 夢かと頬をつねる間もなく目がさめた
- ⑳仕事しながら転寝(うたたね)してた ちょっと休むか転寝(ごろね)して
- ㉑流行り歌 口ずさむうちうとうとしてた うたっていないのうたった寝～
- ㉒狸寝入りの可愛いキミが 寝入る狸に見えた夜
- ㉓昼は客呼ぶ まねき猫だよ 夜は着替えて ねまき猫